

戦争をさせない Anti-War Committee of 1000 1000人委員会

1000人委員会ニュースNo.8

(2014年9月25日号)

〒101-0063東京都千代田区
神田淡路町1-15 塚崎ビル3階

TEL:03-3526-2920

FAX:03-3526-2921

■「戦争をさせない・9条壊すな！ 9.4 総がかり行動」に 5500 人が結集

安倍政権の集団的自衛権の行使容認の閣議決定に抗議し、その撤回や戦争関連法の成立阻止、日米ガイドラインの改定に反対しようと、9月4日に東京・日比谷野外音楽堂で「戦争をさせない 1000 人委員会」と「解釈で憲法 9 条を壊すな！ 実行委員会」主催の「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動」が開かれ、全国から市民や労働者など 5500 人が集まり、集会とデモ行進を行いました。

開会あいさつに立った 1000 人委員会呼びかけ人の山口二郎さん（法政大学教授）は、「安倍内閣の本質は戦争をする右翼内閣だ。閣議決定を許してしまったが、関連法案など闘いはこれからだ。この集会はその第 1 歩だ」と呼びかけました。

フォークシンガーの小室等さんは、反戦詩人家の黒田三郎さんの作詞による「道」を熱唱、作家の雨宮処凜さんは「究極の貧困ビジネスが戦争だ。アジアとの緊張を言う前に仲良くすることが大切だ」と訴えました。作家・作詞家のなかにし礼さんの詩を講談師の神田香織さんが読み上げ、作家の落合恵子さんは「国民の命と安全を守らない安倍政権に対し『賢い不服従』を貫こう」と強調しました。

続いて、菱山南帆子さん（解釈で憲法 9 条を壊すな！ 実行委員会）がカンパアピールを行い、「街中から国会へ規制しきれないほどの多様で大きな闘いをつくり出していこう。安倍首相の戦争に向けた決意は極めて強いが、私たちの平和を守る決意はもっと強く大きい」と元気にアピールを述べました。

各党の国会議員も多数駆けつけ、民主党の荒井聡・衆院議員、社会民主党の吉田忠智党首、共産党の志位和夫委員長が、国会内でも関連法案に反対して闘う決意を表明しました。

連帯あいさつでは、日本弁護士連合会の憲法問題対策本部長代行の山岸良太さんが、「全国の弁護士会が閣議決定の撤回を求めている。10月8日に弁護士会も集会を



会場の野外音楽堂から溢れた参加者は、会場周辺を埋め尽くした
(9月4日、日比谷野外音楽堂)



プラカードを掲げる参加者
(9月4日、日比谷野外音楽堂)

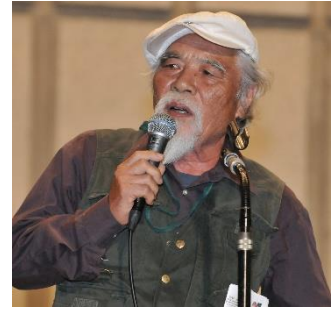
開く」と述べ、学者等で作る立憲デモクラシーの会の中野晃一さん（上智大教授）は、「閣議決定は理論も言説も何もない。私たちが主権者として撤回させよう」と強調しました。

各地からの報告では、沖縄から高良鉄美さん（琉球大教授）が「沖縄の本土復帰は美しき誤解だった。基地は全く減らない」などと、強引に進められる辺野古への新基地建設の問題点を追及、さらに沖縄の彫刻家・金城実さんも登壇し「軍隊は住民を守らないことは沖縄戦でわかった。小さな者をバカにする権力は滅びる」と声をあげました。さらに、戦争をさせない北海道委員会の長田秀樹さん（北海道平和フォーラム事務局長）は北海道集会の取り組みなどを報告、東京・調布市で「憲法のひろば」を開く石川康子さんも市民の取り組みを報告しました。さらに、ジャーナリストの志葉玲さんがパレスチナ・ガザ地区の現状を報告し、惨状を訴えました。

閉会のあいさつを、「解釈で憲法9条を壊すな！実行委員会」の高田健さんが行い、全員で「戦争させない」「9条壊すな」などと書かれたメッセージカードを掲げました。集会後に参加者は日比谷野外音楽堂から銀座を通り、東京駅近くの鍛冶橋までデモ行進し、横断幕やプラカードを手に「憲法違反の閣議決定を撤回させよう！」「戦争関連法案成立を阻止しよう！」とアピールしました。



山岸良太さん（日弁連）



沖縄の彫刻家・金城実さん



1000人委員会呼びかけ人の佐高信さん、上智大教授・中野晃一さん（立憲デモクラシーの会）らもデモ行進に参加した（9月4日、日比谷）



山口二郎さん（法政大学教授） 7月1日に閣議決定が行われましたが、集団的自衛権行使容認をめぐる闘いはまだ始まったばかりだ。山場は、来年の通常国会における関連法案の審議で、それまで私たちはこの闘いを続けていかなければならない。この秋には、福島、沖縄の知事選挙も予定されており、地方選挙から安倍政権に対する国民の怒りを結集し、安倍のやりたい放題の政治をストップさせる糸口を切り開いていかなければならない。世論は決して無力ではない。友人や職場の仲間や、あらゆる人々に平和を愛し、憲法を大事にする想いを伝え、世論をじわじわ変えていくこと。これが安倍政治に対する闘いの最大の方法だ。集団的自衛権を巡る問題で、学者の世界では「単に世界標準の制度を作るだけで、戦争をしようなんて思っていない」などと、とんでもないことを唱

える学者が残念ながらいる。しかし、安倍自民党の本質・本音を見失った錯覚で、こういう学者は本当に愚かだ。昨日の内閣改造では形ばかり女性を登用したが、右派的で人間の多様性・自己決定がわからない人たちだ。この内閣の本質がますます明らかになってきた。経済も多難な先行きで、支持率は高まらず、政治の潮目は変わった。長い闘いとなるが、来年の今頃は自民党総裁選の前に解散総選挙を打って出るのではないかと思う。その時の最大の争点は、憲法改正になるのではないか。長い闘いと言って疲れているわけにはいかない。この1年は、憲法改正を阻止するために、闘い続けていかなければならない。今日の集会が闘いの第一歩として大きな力になるように、皆さんのご参加・ご協力をお願いしたい。



小室等さん（フォークシンガー） 「道」という歌は、1929 年生まれの反戦詩人・黒田三郎さんの作詞に私が曲を付けたものだ。黒田さんは戦争中に東南アジアの農園で働いていて、現地で軍隊に召集された。敗戦後に命からがら故郷の熊本に帰ったが、空襲を受けて焼け野原になった熊本の大地を見て作ったのがこの詩だ。この「道」というのは、戦前は天皇のため、お国のために命を捨てて突き進んでゆくたった一つの道しかなかった。それが戦争に負けて故郷の焼け跡にたたずんだ時に、道は一つではないと黒田さんは想ったのだろう。いま道をついにしようという政治が濃厚だが、何とかたくさんの方の道を残しておきたい。

雨宮処凜さん（作家） 貧困や格差、労働問題に関わっている。最近では 2 人に一人の大学生が奨学金を借りているが、日本には公的な給付型奨学金はないため、卒業と同時に多額の返済がのしかかってくる。そんな学生には、ブラック企業の蔓延といえども就職先を選んでいる余裕はない。さらに問題なことに昨日の東京新聞では、「奨学金の滞納者に防衛省で就業体験」という記事が載った。奨学金を滞納している貧困層や年収 300 万円以下の若者に、防衛省、警察庁、消防庁で 2 年間のインターンを経験させるというものだ。アメリカの経済的徴兵制がそっくり日本に來ていると思う。自分たちの世代の生き辛さ、働き辛さ、労働問題に取り組むうちに、究極の貧困ビジネスとしての戦争が見えてきた。貧乏人を大量に必要とする、究極の不安定労働としての戦場労働というものが浮かんできた。軍隊や自衛隊ばかりではなく、民間の軍事会社にいくらかでも労働者が吸収されてしまう。日本の雇用が破壊された状況で集団的自衛権の問題が出てくるというのは、とても不気味なものを感じる。安倍政権は、アジア情勢に緊張感が高まっていると言っているが、それなら国どうし仲良くしようと提案したい。みなさん最後まで頑張りましょう。



いる。だから私たちは、存在をかけて命を語っていききたい。どうか一人でも多くの人に伝えてほしい」と

道

詞 黒田三郎

それは美しい伯母様の家へ行く道であつた
それは木いちこの実る森へ行く道であつた
それは夕暮ひそかに電話をかけに行く道であつた
崩れ落ちた町のなかに 道だけが昔ながらに残っている
いそがしげに過ぎていく見知らぬひとびとよ
それぞれがそれぞれの中に違つた心をもつて
それぞれが行先に消えてゆくなかに
僕は一個の荷物のように置き去られて
僕は僕に与えられた自由を思い出す
右に行くのも左に行くのも 今は僕の自由である
戦い敗れた故郷に帰り すべてのものの失われたなかに
いたずらに昔ながらに残っている道に立ち 今さら僕は思う
右に行くのも左に行くのも 僕の自由である



落合恵子さん（作家） 今年の 8 月 6 日は広島にいたが、その日の午前中、「コピペの首相」が挨拶し、長崎ではもっと長いコピペをした。被爆者の方が「集団的自衛権行使はどうしても納得できない」という心からの叫びに応えた言葉は、「見解の相違」だった。多くの人々が心を込めて自分の言葉で闘おうとしているときに、コピペをしたり見解の相違だと言える人間がこの国のトップにいるということが悔しくて仕方がない。広島で平和祈念式典が終わった後、もう一度反核を叫び平和を心に刻み付けて、福島と連帯する被爆者の方々の集会が開かれた。その中で、「私たちは 1945 年のあの日から、生きたいと願いながらも生きることが叶わなかった人々の命をもらって今ここに

高齢の方が発言された。そのことをしっかり受け止めていきたい。

沖縄では 10 月の知事選を前に、後戻りができないという実績をつくろうという問答無用のボーリング調査が始まった。あの沖合で反対する市民に向けられているのは機関銃だ。何が国民の命と安全のためだ。彼らのやっていることこそ民主主義に対するテロリズムだろう。昨年 12 月の特定秘密保護法で知る権利を縛り、今度は表現する権利を縛ろうとしている。なぜヘイトスピーチとデモを一緒にするのか。一つの民族やある集団へのヘイトスピーチは人権侵害であり、民主国家において恥ずべきことだ。それと国民や市民の意思を表現することまで一緒にするなと言いたい。7 月 28 日に、オスカーという盲導犬がパートナー



と通勤途中に刺されるという本当に酷い事件があった。その盲導犬は一つの優れた能力を持っている。「賢い不服従」ということだ。パートナーが行けと言っても、危険を察知したらそこにとどまり決して動かない。私たちもここで「賢い不服従」を貫いていきましょう。

神田香織さん（講談師） なかにし礼さんの詩「平和の申し子たちへ！泣きながら抵抗を始めよう」を朗読

平和の申し子たちへ！

―泣きながら抵抗を始めよう―

二〇一四年七月一日火曜日
集団的自衛権が閣議決定された
この日 日本の誇るべき
たった一つの宝物
平和憲法は粉碎された
つまり君たち若者もまた
圧殺されたのである
こんな憲法違反にたいして
最高裁はなんの文句も言わない
かくして君たちの日本は
その長い歴史の中の
どんな時代よりも禍々（まがまが）しい
暗黒時代へともどつていく
そしてまたあの
醜悪と愚劣 残酷と恐怖の
戦争が始まるだろう
ああ、若き友たちよ！
巨大な歯車がひとたびぐらつと
回りはじめたら最後
君もその中に巻き込まれる
いやがおうでも巻き込まれる
しかし君に戦う理由などあるのか
国のため？ 大義のため？
そんなもののために
君は銃で人を狙えるのか
君は銃剣で人を刺せるのか
君は人々の上に爆弾を落とせるのか
若き友たちよ！
君は戦場に行つてはならない
なぜなら君は戦争にむいてないからだ
世界史上類例のない
六十九年間も平和がつづいた
理想の国に生まれたんだもの

平和しか知らないんだ
平和の申し子なんだ
平和こそが君の故郷であり
生活であり存在理由なんだ
平和とぼけ？ なんとでも言わしておけ
戦争なんか真つ平ごめんだ
人殺しどころか喧嘩（けんか）もしたくない
たとえ国家といえども
俺の人生にかまわないでくれ
俺は臆病なんだ
俺は臆病なんだ
卑怯者（ひきょうもの）？ そうかもしれない
しかし俺は平和が好きなんだ
そのどこが悪い？
弱くあることも
勇気のいることなんだぜ
そう言つて胸をはれば
なにか清々（せいせい）すがすがしい風が吹くじやないか
怖（おそ）れるものはなにもない
愛する平和の申し子たちよ
この世に生まれ出た時
君は命の歓喜の産声をあげた
君の命よりも大切なものはない
生き抜かなければならない
死んではならない
が 殺してもいけない
だから今こそ！
もつともか弱きものとして
産声をあげる赤児のように
泣きながら抵抗を始めよう
泣きながら抵抗をしつづけるのだ
泣くことを一生やめてはならない
平和のために！

詩…なかにし礼
二〇一四年七月十日 毎日新聞 夕刊
「若者よ、戦場へ行くな」



集会後に参加者は、さまざまなメッセージを掲げながら銀座をデモ行進し、「戦争をさせないぞ！」「9条を守れ！」などと声をあげて、沿道の市民に訴えた（9月4日、銀座）



■9.4 院内集会

9月4日、夜の総がかり行動に先立って、参議院議員会館講堂で「憲法違反の閣議決定を撤回させよう！辺野古への基地建設を許さないぞ！戦争をさせない1000人委員会9.4院内集会」が開かれました。

はじめに集会を後援した立憲フォーラムの事務局長・江崎孝衆院議員があいさつし、「沖縄は11月16日の知事選挙に向かって、民主主義を守る闘いが展開されて

いる。一部の政治家の思う通りにさせないために、これからが本当の闘いだ」と述べ、沖縄とともに闘う決意を述べました。また、立憲フォーラムから阿部知子衆議院議員、社民党・吉田忠智党首（立憲フォーラム副代表）も参加し、安倍政権と国会で闘う決意を表明しました。続いて、琉球大学法科大学院教授の高良鉄美さんが、「集団的自衛権と沖縄」と題して講演を行いました。会場満席の約300人の参加者は、「辺野古新基地建設中止を求める沖縄の民衆と結びつき、頑張りぬこう」と決意を新たにしました。



集団的自衛権と沖縄・辺野古の闘いについて講演した高良鉄美さん

(9月4日、参議院議員会館講堂)



高良鉄美さん（琉球大学法科大学院教授） 琉球大学で憲法学を教えている。外交問題と防衛問題が交わったところに位置するのが沖縄だ。憲法の問題と辺野古の問題がどう結びついているのかをお話したい。

アメリカと日本は憲法が全く違う。アメリカは戦争して独立して国を作ったが、日本は戦争を反省して憲法を作った。日本の憲法は戦争をしないために作ったはずなのに、いまは戦争ができるように憲法を解釈するという事は、寄って立つ基盤まで変えてしまうことになる。日米安保条約では、日本の領海内で米艦が攻撃されたら日本が守ることになっているが、集団的自衛権は領海外で世界のどこでもアメリカが攻撃を受けたら日本も攻撃をするということで、安保条約とは違う。

集団的自衛権の行使は、これまで世界の中で圧倒的に有利な国が行使しているが、それで戦争が解決したかという、どれも解決しておらず泥沼化している。日本が集団的自衛権を行使してアメリカと共同歩調を取るということは、日本がアメリカと同じような制度を作って同じような動きをするということだ。そうすると、今の自衛隊よりもはるかに軍拡が進み、アメリカ並みになるということになる。集団的自衛権を行使したら、日本には攻撃が来ないかということを考えていないのではないか。当事国どうしが交渉で終結させようとしても、集団的自衛権は戦火を拡大させてしまう恐れがある。

平和主義は9条だけではない。基本的人権の尊重、国民主権、など憲法の条文全てが平和主義となっている。国民の多くが反対しているのに進めるのは国民主権を破っているのではないか。その時に基本的人権も制圧しているのではないか。平和主義が崩れると人権まで全てが崩れてしまう。正にいま、辺野古の海では海上保安庁が市民を拘束している。「何か違法な行為をしたのか」と聞くと、「安全のため」と言って捕まえている。明らかに抗議行動を押さえつけている。沖縄の世論調査では、辺野古のボーリング調査に80%が反対している。これは11月の知事選で結果が明らかになるだろう。辺野古にはジュゴンが生息し、まさに美ら海という場所だ。防衛政務官は「永田町の民意もある」と言ったが、民意というのはどこにあるのか。あなたは辺野古に住んだことがあるのかと言いたい。むしろアメリカ政府のほうがましではないのかと思ってしまうのも無理はない。

集団的自衛権が行使されると日米共同訓練を沖縄の中で行うようになり、沖縄の基地の状況もかなり変化して動きが激しくなるだろう。沖縄に観光に来る人は、オスプレイを見ると「あっ見えた！ラッキー」

と言う人もいます。それはラッキーではなくて、普天間には24機もいます。飛行モードからヘリモードに切り替わって降下するときにはかなりの騒音がある。日本の産業構造も戦争に向けたものになってきている。すでに武器輸出三原則は緩和されて、軍需産業に乗り遅れるなという意識になってきている。アメリカのように、ゲームやおもちゃも軍事化し、戦争ゲーム産業も盛んになるかもしれない。まさにいまレッドゾーンだ。皆さんと一緒に頑張っていきたい。

(以下9.4総がかり行動のアピールより)

いまから43年前、私が琉球政府立那覇高校を卒業した年の5月15日に沖縄県は日本に復帰した。その時に、「沖縄が復帰しない限り、日本の戦後は終わらない」と言った首相は、いまの安倍首相のおじいさんの弟だ。しかし、まだ沖縄の戦後は終わっていない。それどころか日本が戦前になりそう。復帰して沖縄に日本国憲法が適用された。米軍はみんななくなって平和な世の中になると信じていた。ところがそれは美しき誤解だった。復帰に際して当時の政権は、「とりあえず復帰して米軍基地を減らそう」と言い、国会では「すみやかな米軍基地の整理縮小」が決議された。ところが43年かかって基地の整理縮小はされていない。42年前の昭和47年5月15日に、沖縄県憲法普及協議会が発行した「憲法手帳」というものがある。沖縄が復帰したのは日本国憲法があるからだ。だから絶対に憲法を守らなければならない。人の道は破ってはいけないが、戦争の道は破らなければならない。

沖縄の普天間と辺野古の距離は40km程度で遠く感じるが、危険な飛行場が40km先にまたできるということだ。世界一危険なものを建ててさらに軍港まで付けるという、辺野古は集団的自衛権の影響をまともに受ける所になる。しかし、まだ辺野古には何もできていない。ブイが置かれてボーリングは始まったが、基地はまだ影も形もない。だから今が止めるチャンスだ。ぜひ皆さんの大きな声とともに頑張りましょう。



「憲法手帳」を手にする高良鉄美さん
(9月4日、日比谷野外音楽堂)

■集会・活動スケジュール

9月25日時点での予定です。日程変更や緊急の行動呼びかけをさせていただきます。詳細はホームページをご覧ください。

10月8日(水)18時00分～ 閣議決定撤回！ 憲法違反の集団的自衛権行使に反対する 10.8日比谷野音大集会&パレード

主催：日本弁護士会連合会（問合せ TEL:03-3580-9941）

協力団体：戦争をさせない1000人委員会、解釈で憲法9条を壊すな！実行委員会、立憲デモクラシーの会

場 所：日比谷野外音楽堂

発 言：宮崎礼壹氏（元内閣法制局長官／法政大学法科大学院教授）

青井未帆氏（学習院大学教授／1000人委員会呼びかけ人）

上野千鶴子氏（社会学者／1000人委員会呼びかけ人）

中野晃一氏（上智大学教授／立憲デモクラシーの会呼びかけ人）

三木由希子氏（NPO法人情報公開クリアリングハウス理事長）

高田健氏（解釈で憲法9条を壊すな！実行委員会）ほか

10月9日(木)17時00分～ 憲法違反の閣議決定を撤回させよう！日米防衛ガイドライン改定絶対反対！ 10.9院内集会

場 所：参議院議員会館・講堂（入口で入館証を配布します）

講 演：塚田晋一郎さん（NPO法人「ピースデポ」事務局長代行）

※18時30分から官邸前行動を行います

10月24日（金）17時30分～

ANTI WAR LIVE in HIBIYA

場 所：日比谷野外音楽堂

出 演：加藤登紀子、頭脳警察、中川五郎 ほか

※入場料 1000 円（問合せ TEL:042-438-6917）

詳細は、<https://blabit.jp/event?id=665823363525456> にて

11月11日（木）18時00分～

戦争をさせない・9条壊すな！ 11.11 総がかり行動

（詳細未定）

※解釈で憲法9条を壊すな！実行委員会と共同主催

■全国のみなさんからのメッセージ

- 憎しみの連鎖が止まらない
出口はどこにあるのだろう
愛と平和の連鎖を生み出すためには
九条だけが唯一の希望
日本が戦争をしないということが少しずつ世界に認められてきたかと思えたのに
日本が平和の連鎖の端緒になれるかもしれないと思えたのに
すべてを水泡に帰す動き・・・

「朝日たたき」の激烈さに背筋が寒くなる
「自虐」という言葉がかつての「非国民」「売国奴」と同じ響きを帯びる
また言論が封殺される日々が始まった気がする
- 活動の中で、何としてもこれ以上壊すわけにはいかない未来を考えています。
最も大切なものは平和。平和でなければ子どもたちは幸せに育っていくことができません。



「戦争をさせない・9条壊すな！
9.4 総がかり行動」より（9月4日）



- 武器輸出緩和・原発再稼働・秘密保護法・集団的自衛権
悪しきことを 次々とこれだけ実行に移せるとは・・・
政治家が「戦後のレジーム」を学んでいないだけでなく
世界の「福祉のレジーム」の革命的变化も知らないでいる
それゆえ 時代錯誤とも言えるズサンな政治手法で
時の宰相が独裁者のごとき決定をしていく有様に呆然
ほとんど論争もできないでいる
これほどの愚かしさが充満している国であったのかと
自分を含めて深く恥じ入る

軍隊は国が持てる暴力装置
その行使に政治家は最も慎重であらねばならない
そのように説いたのは たしかマックスウェーバー
この国が取るべき道を 今の政権は誤らせている
この国が築いてきた平和を打ち砕こうとしている
韓国・中国との外交から逃げて力がかかわろうとしている
戦争国家アメリカの軍隊と一体的になろうとしている
このことに すこしでも抵抗していきたい

<事務局からのお知らせ>

各地域の取り組み、1000人委員会の立ち上げ、賛同者の皆様のメッセージなどを掲載していきたいと考えています。事務局へ手紙、FAX、メールでお寄せください。紙面の都合上、掲載しきれない場合はご了承ください。